◉韓国政府は20名の留学生らを全員即時釈放せよ！
◉日本政府は20名の留学生らの人権回復に努力せよ！

11.22通信

1977年 11月22日
第 8 号
1部50円＋カンパ
年6回発行
振替口座
大阪4649・摂津富田教会

発行所
「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」
大阪府高槻市富田町3－7－25
摂津富田教会（〒569）
電話 0726－96－2562

白玉光・康宗憲両氏に再審棄却

抗議の渦巻き起こる！

▼当局の処刑策動に▲怒りもて対峙せよ！

未曾有の暑さが続いた今夏、暫しの小康を保っていた「11・22事件」がにわかに急転回する二ニュースが相次いでソウルより持たらされた。白玉光、康宗憲両氏に加えられたこの〝再審棄却〟改悪は、韓国当局が、『彼らは法によって処断される』という事実をわれわれの眼前に如実に示し、再確認したことに他ならない。それはまた、「処刑はないだろう」と安逸を貪っていた救援関係者の足元をすくい、警鐘を乱打した。

そして、この緊迫した状況から脱却するため、「11・22救援会」をはじめ各個別救援会は見事なチームワークを示し、短時日で白氏の〝アリバイ探索〟が奇蹟的に見つかるとうらやましがられる成果をやってのけた。その後も、救援運動は、弾みを付け、急速な展開を示した。二度に亘る東京行動、アムネスティーや米議会関係者らの尽力による海外世論の盛り上がり等…。事態はいまわれわれに有利な方向に動いている。「11・22事件」二周年が間近に迫ってきた。

今こそ、彼らを救いきらねばならない。彼らは全員無実だ。長く暗い冬の夜を、彼らに三度味わせてはならない。

さあ、共に起ち上ろう！

白玉光氏

既報のように七月八日、ソウル地裁は、白玉光氏から提出されていた「再審請求」を一度の審訊も開くことなく棄却した。

この再審請求には、一九七五年六月十七日から七月十四日にかけて白氏が『渡北』していたとされる時期の〝アリバイ証明〟が添付されていたが、棄却の理由による「会」は、一万枚の抗議請書をソウルに集中させた。また、米国の国選弁護人は、第三者に投図して書うこと六月二日、クラブで食事をしたという領収明細書及びポステスの証言は、「ホステス風情（ふぜい）の言葉は信頼するに足りない」と職業蔑視の差別的なもので、これらは明らかに予断と偏見をもった裁定と言わざるを得ない。

白氏の棄却の一報が七月下旬に持たらされた後、各救援会は一斉に抬動を開始した。

処刑中止を求めて「11・22救援

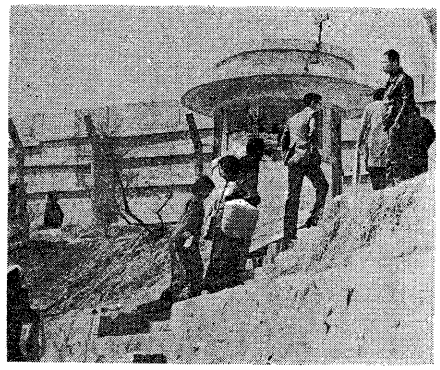
新たなデッチ上げ・柳兄弟事件

拷問を告発、判決は無期

在日韓国人留学生三人を含む新たな「スパイ」デッチあげ事件が、また明らかになった。留学生ら三氏は公判廷を通じて拷問の事実を鋭く告発し、「11・22事件」とまったく同じ様相を示したが、判決は無期懲役二名を含む非道極まるものであった。

「11・22救援会」では、この事件を「柳兄弟事件」と呼称し、今後、この三氏の救援活動を行うことを決定した。

これで、「11・22救援会」が、ホロー・アップする被救援者は、二十名となった。



柳兄弟らが居るソウル拘置所

ソウル地裁（許正敏裁判長）は、十月二八日午前、在日韓国人留学生、柳奚敏＝ユ・ヨンス＝氏（28）【求刑死刑】、金整司＝キム・ジョンサ＝（21）【ク無期】記者会見し、「判決は不当なもので、被告らの拷問の叫びを黙殺したのは許せない」と抗議声明を発表した。

「救援会」では、救援活動が後手に回り、被告らの訴えを結果的には受け止められなかったことを反省し、一審に向けては、万全の救援体制を取ることを決意している。

九月三日、大阪国労会館において、韓、現ソウル大社会学部一年。父親は民団の要職にある。

の両氏に反共法、国家保安法、刑法、大統領緊急措置令九号等違反容疑で、無期懲役の不当な判決を下した。

また、柳奚敏氏の実弟の柳成三＝ユ・ソンサム氏＝（25）【ク十年】に懲役二年、韓国在住の孫貞子＝ソン・チョンジャ＝さん（18）【ク五年】に懲役三年執行猶予五年の判決を下した。

四人は本年四月から五月にかけて、CIC（陸軍保安司令部）に「スパイ」容疑で逮捕され、去る七月より裁判が始まり、約十回ほどの公判を経て今回の判決となった。

「11・22救援会」では、かなり初期の段階でこの事件をキャッチしていたが、「一審判決まで待って欲しい」という家族の要請を受けつつ、柳兄弟の出身校の同窓生や在学生、教員らに働きかけて、救援会の早期結成を促していた。

そして、判決翌日の十月二九日夕、これら「救援会準備グループ」と合同で、大阪国労会館にて、「救援会」が結成された。

【柳奚敏】＝和歌山市杭ノ瀬（県立熊谷高卒）、七五年渡韓、現釜山大大学院応用化学科一年。

直接容疑は、助教授の資格試験を拒否されたことから、「〝北〟では在日僑胞でも教授になれるに、韓国で許されないのは差別だ」との上申書を提出したとと、反共法で拘束された。

彼は、九月十九日の六回目の公判廷で、「電気・水拷問を受けた」と暴露した。また、「拷問のため、やむなく背後操縦者として宮前小学校時代の〝石田先生〟の名前を出した」と苛酷な拷問を告発し検事をたじろがせた。

【金整司】＝埼玉県秩父郡横瀬村＝（県立熊谷高卒）、七五年渡韓、現ソウル大社会学部一年。父親は民団の要職にある。

裁判傍聴者によると、金整司氏に、韓国語がよく理解せいか、検事の韓国語がよく理解できない様子であったという。

【柳成三】＝和歌山市杭ノ瀬（県林業、大阪府立工業短期大学卒）七五年渡韓、現漢陽大医学部一年。兄の容疑で連座起訴されたが、公判廷で全面否認した。

【孫貞子】＝ソウル市在住＝現漢陽大学医学部一年。柳成三氏の友人で、彼が連行される際、怯えて「彼女の家に逃げこんだため」というのが唯一の容疑。孫さんは在宅のまま起訴された。

容疑は「不穏書籍を持っていた」とあるが、定かでない。

この「柳兄弟事件」は、韓国内では一切の発表がないが、判決翌日の韓国各紙は、金整司氏のみ「韓民統の〝スパイ〟として無期判決を受けた」と報じた。

◇　◇

李哲氏

死刑確定から半年

▽各地で抗議行動△

本年三月八日に死刑判決が確定し、約一百名が結集した。この集会では、判決確定後、ともすれば目に当る去る九月八日、「李哲氏を救う会」が中心となって各地で運動した抗議行動が展開された。

【東京】

九月八日夕、自治労会館にて、在京の死刑確定の五者の救援会が中心となって、抗議集会が持たれ、約一百名が結集した。この集会では、判決確定後、ともすれば沈滞化の兆しを避けられなかった運動を心機一転奮揚させ、李哲氏らを含む〝政治犯〟を必ず救い切る覚悟を新ためて再確認した。

続いて、翌九日から、台風の余波を受けて風雨激しい数寄屋橋公園にて、「李哲氏を救う中大の抗議集会」を主催して、解放センターで抗議集会を開いた。

登壇した「11・22救援会」の桑原事務局長は「日韓の様々な運動を展開しているグループとは、相互に信頼と主体性を尊重して連帯するのは勿論だが、その際、われわれの側としては、救援運動の活性化を追求するあまり、その独自性を放棄し状況だけに流されないように留意すべきだ」と注目された。

【大阪】

大阪では、九月八日夜、発足したばかりの「11・22救援大阪連絡会」が主催して、解放センターで「11・22救援大阪連絡会」の発足を受けて「11・22救援会」の桑原事務局長は「日韓の様々な運動を展開しているグループとは、相互に信頼と主体性を尊重して連帯するのは勿論だが、その際、われわれの側としては、救援運動の活性化を追求するあまり、その独自性を放棄し状況だけに流されないように留意すべきだ」と注目された。

【熊本】

「李哲氏を救う会」の全国連絡会が豊かれている熊本では、九月二日より、九日まで、熊本市の花畑公園で二八時間の超人的なハンストが貫徹された。ハンスト行動は多くの市民の共感が寄せられ、カパンだけでも約二十万円を集約した。同会ではこの成果を踏まえ、李哲氏の死刑執行を阻止し、必らず救出するという決意を固めている。

10月4日、清水谷公園

■日韓閣僚会議■

抗議の連続行動

去る九月初旬、東京で開かれて、救援会員ら約四百名が参加した日韓定期閣僚会議に反対する集会とデモが波状的に行なわれた。

集会後、百五十名が上京した。翌九月四日午前、上京団は東京の救援グループら約二百名と千駄谷区民会館にて、日韓閣僚会議開催を糾弾する集会を持った。

続いて、午後一時から清水谷公園において「全国共同集会」が開かれ、各地から子名が結集した。

集会後は、「韓国の政治犯釈放等」の決議案を採択後、外務省に抗議デモを行った。

「11・22救援会」では、この一連の抗議行動に率先して参加し、いわゆる〝政治犯〟救援問題を中央レベルの緊急な課題として取り組ませることを企図していたが、ほぼこれは達成された。

「閣僚会議は日韓ゆ着を強化し、ひいては留学生ら韓国の〝政治犯〟を永久に幽閉する朴政権へのテコ入れだ」と開催に強く反対する抗議集会を持った。

集会後、百五十名が上京した。翌九月四日午前、上京団は東京の救援グループら約二百名と千駄谷区民会館にて、日韓閣僚会議開催を糾弾する集会を持った。

続いて、午後一時から清水谷公園において「全国共同集会」が開かれ、各地から子名が結集した。

集会後は、「韓国の政治犯釈放等」の決議案を採択後、外務省に抗議デモを行った。

「11・22救援会」では、この一連の抗議行動に率先して参加し、いわゆる〝政治犯〟救援問題を中央レベルの緊急な課題として取り組ませることを企図していたが、ほぼこれは達成された。

韓国の運動と連帯

「11・22救援会」では、日本での救援運動を押し進めるべく、この事件に関する情報の相互交換と運動の連帯を求めて、韓国内の〝民主回復グループ〟と密かに接触を図った。勿論、彼らの危険を考慮し充二分に配慮しつつ。

その結果、彼らは「11・22事件」の概略は承知していたが、〝スパイ〟容疑の救援は危険が大きく、在日留学生のホローまでは手が届かず、こちらの資料を提示すると、日本や海外で注目されていることにかなり吃驚している様であった。

しかし、康宗憲氏、金哲顕氏がらみの本国人学生に関して・にされている。書簡の内容は、は、資料も豊富で報告も頻繁に受けているという。これは異例の対応で、少なからず彼らにも危険が伴う。（例えば、韓国アムスティーなどは、好むと好まざるに関わらず、当局が〝スパイ〟容疑と断定すれば救援は一切できない。）

本国の学生も忘れるな

「11・22事件」の在日の十七名は、比較的よく語られている。しかし、彼らと連座して捕えられ今なお獄中にある本国の学生は殆ど顧みられていない。

この事件のもう一つの側面を抉る努力を怠ってはならない。本国の学生らが、獄中や裁判を通じて、再三再四魂を振り絞った〝デッチ上げ〟の告発は、取りも直さずこの「11・22事件」の虚構性を検証している。

本国人で起訴されたのは、康宗憲氏関係が十四名、金哲顕氏が三名、金五子さんが三名、それに李哲氏が二名の合せて二三名である。大部分は執行猶予が付き、現在も拘束中なのは、康宗憲、金哲顕両氏が二人ずつ、李哲氏が一人（関香淑さん）の五人。

蛇足だが、李哲氏の公判廷における毅然とした態度は、ソウルでは大変な評判で、運動グループは励まされているそうだ。

本通信は、これら一連の情報と資料を踏まえて〝康氏事件〟の徐光兌、（ソ・ガンテ）氏と〝金哲顕氏事件〟の金孫泳（キム・ミョンスン）氏に焦点をあててみよう。

〝徐光兌氏〟その闘い

徐光兌氏（東京情報は全く徐光泰となっているが誤り）は、徐光兌氏は、ソウル大医学部の康宗憲氏と同級で、スラム街で医療奉仕活動を行い、ソウルの〝民主グループ〟には知られていた。尹潽善氏が、昨年末、「民主救国宣言事件」の公判廷で、康宗憲らの例を挙げたのは、徐光兌氏との関連で知り得た、と思われる。

拷問の苛烈徹底告発

CICでの彼への拷問は、凄絶を極めたという。TK生によると「殴打され、全身が血まみれになり、口から血を吐いて倒れた。その血を洗面器に受けて飲ようにいわれた。膝の下に棍棒を入れ膝を軍靴で執拗なく踏みにじって、また木で殴り、木は折れ、足の肉は裂けて地下室間で、これには康、徐両氏を含む十二名の氏名が明らかに」（「世界」77年12月号）。彼はまた、一審で否認すると、再度獄中でCIC（陸軍保安司令部）の学生を手当。拷問を受け、過度の薬物投与で精神錯乱症状を呈し公判を欠席した。

韓国神学大の金明深氏に加えられた拷問も凄絶の常識を超える苛烈なものであった。

一週間毎に下着を差し入れる際、突っ返された古い下着上下は原色をとどめず厳しい血糊で染まり、彼の苛烈さを卒倒した。

それは、裁判が始まる直前まで三ケ月も続いた。

このように、本国の連座したとされる学生らは例外なく宗教者まで徹底的に痛ぶられた。

彼らが容易に妥協しなかったのには理由がある。

それは、単なる反体制運動で司直に委ねられたなら、罪状も軽いが、今の韓国で「北のスパイ」と烙印を押されることは、その全存在を抹殺されに等しい。また、〝ぬるま湯〟育ちの留学生と一番の硬軟に酷薄な現実に通じている本国の学生とでは自ずと気構えが異なる、とも指摘される。

学生歌高唱

▼法廷内▲

彼らの裁判も素晴しかった。一審時、留学生の殆んどが、罪状を意味なく〝認めた〟（一審時に覆したが）のと違って、彼らは徹底抵抗し、無実と拷問を果敢に指弾し、傍聴の支援の友人らからヤンヤの喝采を浴びた。母校の学生歌が法廷で合唱されたほどだ。また金明深氏は、高裁の韓正鎮裁判長に向って叫んだ。「身柄の韓正鎮裁判長！あなたはあの拷問は、裁判長！あなたといえども堪えられない！」と。

しかし、それらの叫びは届かなかった。

徐光兌氏は、一審の15年から二審は8年に、金明深氏も無期から10年に減刑されただけ。

彼らにも救援の手を！

抑え難き彼らの憤怒は、いまだ止まず地中で震えている。彼らの闘いの記録もまた、われわれの胸に書き留めねばならない。（ONE）

「11・22」連座の本国学生ら

救援も届かず

凄惨な拷問

衣服が血みどろに！

最近俄に注目され出した。本年六月三十日、ワシントンポスト紙の東京特派員、ジョン＝サーベル記者が彼の獄事のレポートを掲載したからだ。彼の名前が初めて登場したのは、七六年一月の地下室間で、これには康、徐両氏を含む十二名の氏名が明らかに」（「世界」77年12月号）。彼はまた、「七五年十二月初旬に、CICがソウル大医学部の学生を手当。拷問を受け、過度の薬物投与で精神錯乱症状を呈し公判を欠席した。

共に頑張ろう

◎李東石氏の獄中記録◎

この報告は、今年の夏、大田矯導所で彼と面会した時のメモに基いて作製されました。彼の夏はアセモが体中にできて困りました。

私は今、韓国のソウルからだいぶ南にある大田矯導所に囚われの身となっています。

毎日生活している監房はたった一坪の広さに三人が居ます。足を伸してやっと寝られるほどで、電灯はないようなもので八時にはもう寝ます。

夏の暑さや冬の寒さは日本に比べようもなく厳しく、特に冬の寒さはソウル拘置所にいた時に比べ、ずっと厳しくなっています。

矯導所では転向者と非転向者に大きな待遇の違いがあります。例えば、郊外ピクニックやバレーやテニスなどの運動にしても、所内作業は、非転向の場合は殆ど許されず、一日中獄内で過さねばなりません。

今春、弁護士が面会に来て転向をすすめた時には、私は次のように考えました。

転向することは、自分がスパイ罪を認めることであって、スパイ罪となることは何もしていない。だから、転向はしないんだ。もし自分が罪を認めると、外の同胞の人達もみな罪になってしまう。だから、私の行為は罪と思わないし、転向もしないんだと…。

今、唯一の精神的な支えである読書も、非転向ゆえに禁止されています。今年の五月以降からですが、でも自分だけが禁止されているのではありません。転向していない者は皆、そうだから大丈夫です。

留学生の〝スパイ事件〟で、この大田矯導所には多くの在日同胞が入っています。留学生の内私を含む何人かは転向せずに頑張っていますが、転向した人でも苦しい状況でそうならざるを得なかっただけで、全員頑張っています。是非とも、このことを忘れないで下さい。

私は、この矯導所で精神的にも非常に強くなりました。私を激励する誕生カードやクリスマスカードが十枚も日本から送られてきました。きっと日本から沢山の人々が出した中の一枚だと思っています。一枚に多くの顔も知らない人の気持がこもっているんだ、そう考えています。

きっと刑期が終る一九八一年一月五日迄には、外に出られると確信しています。その時には皆さんと、強く強く手を握りあいたいと思います。是非とも日本で頑張って下さい。

早くその日が来ますように!!

（父寶、李東石を救援する会）

韓国大田矯導所

渡韓報告　また会おう崔さん！

―崔然淑さんを救う友人の会―

崔然淑さんに懲役五年が確定した直後の今年一月、彼女は大田矯導所に移送された。

崔さんは今は元気でいるだろうか、矯導所は現在どういう待遇をしているのか、私は不安を抱きながら八月中旬韓国に飛んだ。

八月十九日、約一時間ほど面会することができた。

ガランとした室の中で崔さんと向い合って、「少しやせたね」と私が言うと、「私、太ったでしょ、ね、前より太ったでしょ」と崔さんは私にそう言わせたいように同意を求めた。崔さんの左右隣には教務課長と教務課員の二人が聞いている。教務課長は熱心にメモをとっていた。私はあえて「太ったね」と言うことにした。

矯導所の待遇を訊ねると、崔さんは全部不満だと、はっきり何度も言った。私を通じて日本にいる者たちに伝えたい様だった。しかし、何が不満なのか具体的には何も言えなかった。

毎日の生活は、朝六時起床、七時半から午後五時半まで細かい刺繍の入った手袋作り。昼食後の三十分は「外で立っていなければならない」と辛そうに崔さんは語った。夜は疲れて本を読む気も湧かず、寝てばかりいるという。読書好きの崔さんを知る私は、暗くて読めないのかと問うと、すかさず教務課長が口を挟んだ。室には十六人一緒だそうだ。待遇は四級だと崔さんは言った。教務課長は崔さんに、四級は面会は月一回だが、今月はもう何回も会わせていると、暗に不満がでるのは贅沢だと言わんばかりだった。

事件の話をした際、崔さんは「日本では何もなかった?」と何度も私に訊ねた。「何も思ってなかったよ。心配することはない」と私は答えた。それから、姉さんや弟さんがどう思っているか詳しく訊ねた。

家族宛の手紙で大分弱気になっていたがと聞くと、「その時は気が滅入っていたけど、今は大丈夫」と笑って崔さんは答えた。私に会って強がっている面もあるのだろうが、心理的には昔の崔さんと変らぬ元気さがあった。

髪を切っておかっぱ姿の崔さんは、以前の崔さんと変っていなかった。あの友人たちの誰もが知る崔さんだ。ただ、昔に比べて人に対してもっと配慮深くなったことが年月の経過も知れた。

また、会おう崔さん!

救援会　原状回復を！

―留学生らの原票抹消に抗議―

「11・22事件」不当拘束者十七名の内、十六名までが、この日本国内で生育し、協定永住権を有する青年たちだが、彼らが将来釈放後、日本に戻る場合に備えて、先頃法律的裏付けを調査したところ、彼らの戸籍にも充当すべき外国人登録証原票が、法務省の主導下ほぼ全員抹消されていることが判明した。

在阪の個別救援会が集まって結成された「11・22救援・大阪連絡会」が、救援行動の一環として、留学生らの登録原票の点検を行なっていて、はじめての事実が明らかになった。

原票抹消は、普通「死亡」か「国籍離脱」の際に採られる措置であるが、「今回の留学生らは不当に拘束されて本人の自由意志に反して、出国が適わないため帰れないのであり、今回の法務省の措置は留学生らの人権を不当に無視したものだ」と救援会は強く反発している。

理不尽な優遇に甘んじている人たちに迫い打ちをかけるような今回の法務省の施策は、極めて非人道的であろう。

「11・22救援会」では、〝留学生らの原状回復〟を求める運動を今後の救援運動の主要な課題として展開したいといっている。

そして、当面は学者・弁護士・議員らと連携チームを作り、法務省に具体的に働きかけていくことを明らかにしている。

シンポ開催「李哲氏の会」

「李哲氏を救う大阪の会」では、救援運動から派生した、日韓にまたがる諸問題の学習会を企画している。

従来からの地域活動との連動を求めるため、大阪府吹田市周辺この連続シンポジウムが持たれる。講師は、「11・22救援会」の桑（〇七三六―八三―二四六四まで）

九・二八デモ行動、扇町公園にて本通信一面参照。

政治犯に支援を！

9・11　名古屋で初めて

去る九月十一日、在日韓国人〝政治犯〟の早期釈放を要求する市民集会が、名古屋の地で初めて持たれた。

この集会は、「李哲氏を救う名古屋の会」や「在日韓国人〝政治犯〟を支援する名古屋の会」等が実行委員会を結成して開催した。

集会では、「カトリック正義と平和協議会」の相馬信夫主教より、〝死刑確定者〟らへの救援を世界のカトリックグループに要請していることが報告され、注目を集めた。

集会後、約二百人の参加者は、「李哲氏らをかえせ!」の唱和を繰り返し、名古屋駅まで抗議デモを行なった。

〝凍河をこえて〟

B5判、72P　¥400

申し込みは「11・22救援会」か

埼玉県所沢市下安松286

三田様気付

「金元重氏を救う会」

「我生きんと欲すれど」

○玄曜社発行、四六版上製二百頁

○李哲さんを救う全国連絡会編

○定価、一二〇〇円

（最寄りの救援会へ）

演劇を上演

「李東石氏の会」

去る十月十八日、「李東石さんを救援、日韓問題を考える東大阪市民集会」が開かれ、約三百名が結集した。

東大阪の地にて救援運動を押し進めてきた「李東石さんを救援する会」が東大阪地評の労働者と共に救援運動と日韓の問題を前面に掲げて開催にこぎつけた。

集会では、李東石氏の人となりが凝縮された劇「再び強く手を握り合う日まで」が上演され、好評をはくした。

この演劇の好評は、役を演じた会員の二人が日韓のはざまにあって李東石氏が嘗めざるをえなかった苦渋や辛酸の一端に追体験を試みようとした真摯な気魄が表われたことに尽きるだろう。

救援会では、この劇のシナリオを多くの人に読んで欲しいと願っている。

〝絶対安静〟

李哲氏の母堂

李哲氏の母堂、李粉襞さん（54）が去る十月末、心臓発作で倒れ熊本大学医学部付属病院に入院した。

李粉襞さんは、ソウルの裁判所で李哲氏の〝無実〟を直接証言するなど、母親として昼夜もわかず奔走していたが、心労が重なり自宅で突然倒れ救急車で運ばれた。

現在、絶対安静の状態で、残された家族は、先に父親もやはり事件発生の七六年一月に亡くしていることから、李哲氏のこともあわせ、沈うつな気に包まれている。

城北地区で映画に三百人

九月二日、大阪旭区の生江解放会館で、映画「世界人民に告ぐ」の鑑賞集会が持たれた。

上映集会は、「梁南国氏を救う会」が中心となって呼びかけ、地域の労働者、教師、解放同盟員ら約三百名が参加した。

映画上映後、救援会の訴えや梁南国氏の実兄の梁南皓さんからの挨拶が続いた。

同救援会では、今後地域の活動に根ざした救援運動を展開したいと言っている。

〝在日韓国人不当逮捕者支援コンサート〟
「殺されてたまるか！」
（小林隆二郎　中山ラビ　小室　等　中山千夏他）
78年1月30日　午後5時半
サンケイホール
前売券　1200円（06―314―1631）

「処刑停止求め」ソウルに要請電報！

◎ アムネスティー国際大会 ◎

「11・22事件」に対する国際世論が急速に高まっている。去る八月下旬、東京の「日本カトリック正義と平和協議会」は、日本人司教の連名で嘆願文をソウルに送付する一方、世界の司教会議などに「処刑停止」を求めて行動提起を行なった。

この呼びかけに応えて、イギリス、オランダ、フランスやマニラに本部のあるアジア司教会議が、韓国に要請書簡を出すなどの救援運動に乗り出した。

また、「11・22救援会」では、マスコミなどに資料を送り、取材依頼を行なっていたが、ワシントン・ポスト紙が康宗憲氏のデッチ上げ事件を六月三十日付で発表したのに続いて、英国オブザーバー紙も東京特派員電で、「悲痛な叫び」在日韓国人死刑確定者」と題する長文の記事を各国に配信した。

救援会では、引き続き、「11・22事件」を教社の新聞社と有名雑誌社に提訴するよう働きかけている。

◇　◇

川久保氏

アムネスティーの世界大会が去る九月十六日～十八日にかけて西ドイツで開かれた。

日本代表として参席した川久保公夫大阪弁護士会会長（アムネスティー日本支部副理事長）らは、同大会に在日韓国人政治犯の死刑被判決者六名の救援に関する「緊急決議案」を提出した。

過去、同総会では、特定国だけを組上に乗せた「決議」は前例がなく、討議に際しても種々の問題が生じたが、川久保氏らは用意した資料を示し、在日韓国人社会の悲惨な現状やKCIAによる〝スパイ事件〟デッチ上げの背景等を粘り強く説し、支持を得た。

同「決議案」は、参加三十三ケ国の満場一致をもって採択された。

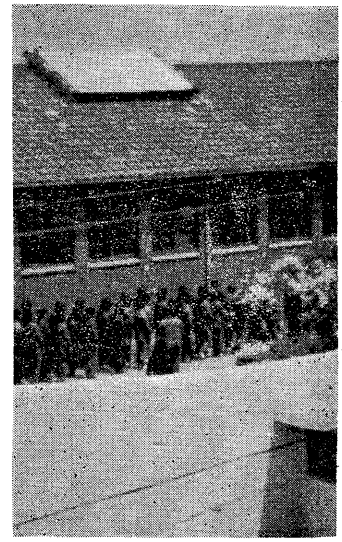
この決議をうけて、アムネスティーロンドン本部は全世界のアムネスティ支部に〝緊急行動〟を呼びかける予定である。

また、十月初旬、同本部は留学生ら三氏に限定した処刑中止の要請電報を、韓国大使館、法務長官に打電した。

更に、日本政府首相と外務大臣にも、「死刑執行停止のため韓国政府に働きかけるよう」依頼した電報も送付した。

アムネスティーへの説得は、懸案の課題であったが、それだけに今回の吉報には、「11・22救援会」とこの事件に関心の深いアムネスティー会員らは、喜びの色を隠せないでいる。

同グループでは、もっと広範な世論を巻き起こし、確実に彼らを救出しうる証徴を得たいと、決意を新たにしている。



韓国の某刑務所の極秘内部写真
この写真に限り無断転載を厳禁

映画〝詩雨おばさん〟皆なに観て欲しい！

K君、お元気ですか。

昨年冷雪で金滅した臨福が今年は爽快でよかったですね。

われわれの隊伍から離れ、突然「七に生きる」と言い出し、信州の山奥に逼塞して、もう五年になります。でも君の便りで「丈高くなびき伏す穂群に早やシベリアから風（おろし）が吹く　そのさんざめきに耳をそばだて　ソウルの消息を聴く　灰白色のソウル拘置所の高い鑑を突き抜けた風よ！　何が見えた　牢屋に両眼を凝らした李哲か　凛然と背筋を伸ばした白玉光か　風よ　語れ」とありました。

これは、いつ何処にいても〝真の関わり〟が必要なら連帯と好の共有が可能だ、ということを示しています。

三年前、在日韓国人二世の李学民氏が処女作〝異邦人の河〟を世に送り出しました。初物好きのマスコミは持て囃しました が、どうもいけません。日本人し根源的な民族の自覚を問うため母国に留学します。しかし、野卑な権力は、個の豊饒な情念の噴出を徹底的に打撃します。理性を凌駕した権力の残忍なまでの凄惨な拷問は、観者に怒りを通り越し寒気すら感じさせます。この蛮行がいつの世も繰り返され、歴史の鏡に写されるだけ、というのは納得できかねますが……。

最後に彼は死に追いやられます。

K君、君の業績と態度で、生半可なわれわれの救援運動を超えているようです。

少し前置きが長くなりましたが、今日は映画の試写会に行ってきました。その話をします。

君は君の業績と態度で、生半可なわれわれの救援運動を超えているようです。

少し前置きが長くなりましたが、今日は映画の試写会に行ってきました。その話をします。

三年前、在日韓国人二世の李学民氏が処女作〝異邦人の河〟を世に送り出しました。初物好きのマスコミは持て囃しました。

これは、いつ何処にいても、〝真の関わり〟が必要なら連帯と好の共有が可能だ、ということを示しています。

三年前、在日韓国人二世の李学民氏が処女作〝異邦人の河〟を世に送り出しました。初物好きのマスコミは持て囃しました。

「11・22」の留学生と同じように李詩雨は、日本人化を拒む姿勢が、逆に僕たちの救援運動の意味の問いかけを促しているようです。

僕には詩雨の生き様を透かして白玉光や康宗憲のそれがよりリアルに迫ってきました。

われわれの存在と彼ら被救援者の存在は、常に相補完し共抗するものだということを新たに認識しました。

費用や時間の点で細部の影響は希むべくもないですが、いくつかのシーンが斬新な象徴的手法を駆使して丁寧に撮られています。

ことに詩雨の追想場面はどれも美しく、詩情すら溢れています。たゆたう波間に、縦型飛行機が何ものかに翻弄されるかのように激しく揺る場面は圧巻です。

これには、闘い名を恐れ勇まいかけ声はないけれど、冷徹なまで現実を直視しているようとの姿勢は